

福山市（仮称）子ども未来館 第三回検討委員会 会議資料

トータルメディア開発研究所・凸版印刷

第一回検討項目

施設のミッション：施設が将来成し遂げるべき使命

施設の目的：ミッション実現に向けて施設が実施すべきこと

施設のメインターゲット：誰に対して訴求するか

第二回検討項目

施設の基本理念：施設が大切にしている価値観

施設の基本機能：基本理念を達成するために施設が備える機能

施設のテーマ：施設が取り扱う主要な分野・範囲

第三回検討項目

施設のゾーニングと諸室：ゾーン構成案とバックヤード含めた必要諸室案の整理

施設の立地：施設の建設予定地の条件整理

管理運営方針・体制：施設に必要な部門や人材案

事業方式：民間活力導入手法含めた事業方式の整理

事業スケジュール：事業全体のスケジュール案

施設の基本理念

知的好奇心を喚起し、未来に向けて挑戦する心を育む

（仮称）子ども未来館は、世の中の様々な知見や社会的な潮流を取り込み、体験をベースとした幅広い学びを通じて知的好奇心を育みます。さらに、実践的な取組の場を設け、その中から社会課題の発見・解決能力を培います。また、多様な主体をつなぐとともに、福山の魅力を内外に発信し、多くの人が集まる、豊かな地域社会の実現に貢献することを目指します。

施設の役割と方向性

人材育成

連携・交流促進

情報発信

デジタル社会を担う
人材の育成

体験を通じた学び

市内外の各機関との連携

世代や属性を超えた交流

郷土愛の醸成

福山の認知度向上

施設の基本機能

人材育成

連携・交流促進

展示

活動

連携

交流

【展示のポイント】
科学を中心とした幅広いテーマで体験性と更新性の高い展示を展開する。



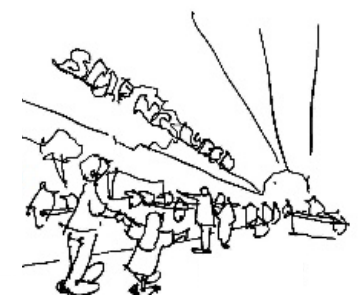
【活動のポイント】
科学への興味を入り口に、活動を通じて課題発見・課題解決能力を醸成する。



【連携のポイント】
科学館の中だけで完結せず、外部の知見を積極的に取り入れる。



【交流のポイント】
多様な来館者層を想定し、世代や属性をこえた交流を促進する。



情報発信

ゾーニング・諸室の検討

施設の管理運営

【管理運営のポイント】
社会的な潮流を敏感に察知し、組織で価値観を共有しながら持続的な経営・マネジメントをおこなう。

管理運営の検討

施設のゾーニングと諸室について

■展示

科学を中心とした幅広いテーマで体験性と更新性の高い展示を展開し、来場者の知的好奇心を喚起させる。



科学の原理や環境などテーマ毎に体験性の高い展示コンテンツを配置した常設の展示空間



定期的に科学のショー開催するサイエンスショーステージ



期間ごとにテーマを変えて展示を行う企画展示スペース

■連携

学校や企業等、館外との連携を通じた情報発信や成果発表を行い、外部の知見を積極的に取り入れる。



学校や企業など内外の人々が集まり、情報交換や協働ができる場



地元企業が自社の技術や最新の取り組みについてを紹介できるスペース



大学などの教育機関、研究機関等の活動成果や研究成果を公開、情報発信するスペース

■活動

講座や創作、実験など様々なプログラムを展開し、科学への興味関心や挑戦意欲を喚起させ、課題発見・課題解決能力を醸成する。



工作や映像制作を始めとする各種創作活動のためのスペース



体験プログラムやプロジェクト別に活動を実践する場



科学原理にふれることができる理化学実験を行う実験室

■交流

多様な来館者を想定し、各機能をゆるやかにつなぎながら、世代や属性をこえた自由な交流を促進する。



自由にくつろぐことができる広く市民が利用可能なスペース



乳幼児及び保護者が休める場



展示や未来館の活動や連携先に関連する書籍が閲覧できる場

施設の機能達成に向けた諸室構成の一案

機能	諸室	概要	
展示	常設展示室	テーマ展示	テーマ毎に体験性の高い展示コンテンツを配置したスペース
		サイエンスショースペース	サイエンスショーを行うスペース
	企画展示室	期間ごとにテーマを変えて展示を行うスペース	
活動	セミナールーム	館主催のセミナー・講座、イベント等を行うスペース	
	工作室・工房	工作やものづくりを行うスペース	
	スタジオ	映像や音楽の制作・編集等を行うスペース	
	実験室	実験を行うスペース	
連携	企業・研究展示	企業や大学が出展し事業や研究、技術などを紹介するスペース	
	研究発表情報発信	大学や短大、研究機関等の研究成果を公開するスペース	
交流	ホワイエ	イベント実施が可能な来館者を迎える共用スペース	
	図書スペース	展示や活動に関連する書籍が設置されているスペース	
その他	事務室等	管理者や運営スタッフが常駐するスペース	
	通路・共用スペース・バックヤード等	—	

施設の立地について

施設立地については構想策定段階では未定のもの、以下の複数の視点に立脚し最適な立地先を検討します。

アクセス

- ・子どもだけでも来館が可能であることを想定し、公共交通機関の利用が可能なこと。
- ・学校帰りの利用などに立ち寄りやすい立地であること。
- ・駐車場の確保、大型バスの停車などが十分にできること。

相乗効果

- ・同様の文教施設など連携可能性の高い施設が周辺に立地、集積していること。
- ・日常的な市民活動の場として利用しやすい立地であること。

規模

- ・（仮称）子ども未来館として、学校や団体利用など多くの方に十分なサービスを提供できる規模を確保できること。
- ・将来的なりリニューアルや機能改変などが可能な規模を確保できること。
- ・屋内に限らず、事業内容に応じて屋外なども利用可能な敷地が確保できること。

スケジュール

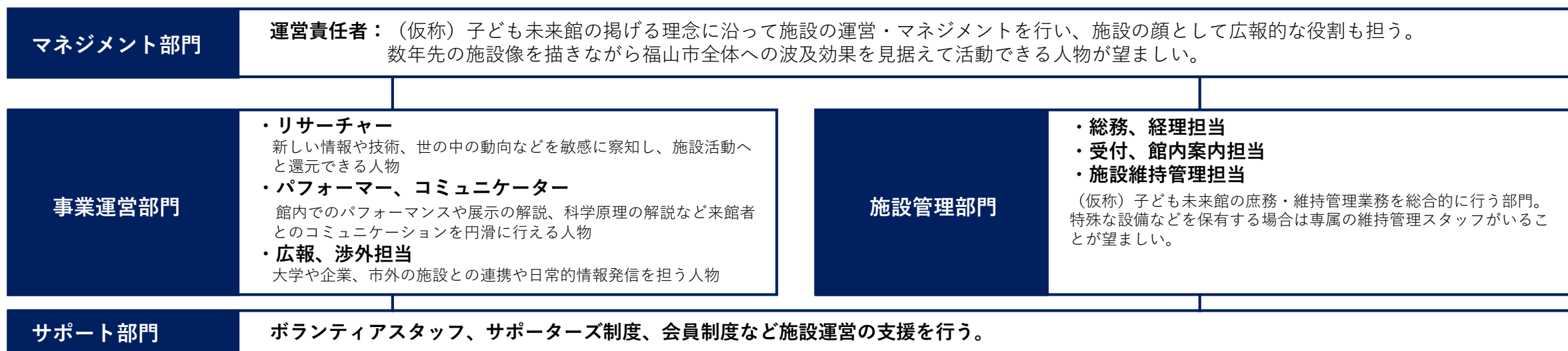
- ・土地の取得、開発に関わる制限が少なく、早期に着工へと進めやすいこと。

管理運営方針について

（仮称）子ども未来館では理科学習を主とした多種多様な事業、および施設内外との連携が求められることから、外部への広報の充実、市民参加の促進、教育普及などの事業に力を入れていくことが求められます。これらを実現するために専門知識を有する職員の配置が必要であり、同時に地域や他の施設とのネットワークを構築していく上で、連携や広報を担当する職員の配置も必要と考えられます。このような特徴から、（仮称）子ども未来館の運営においては社会的な潮流を敏感に察知し、組織で価値観を共有しながら持続的な経営・マネジメントをおこなう必要があります。

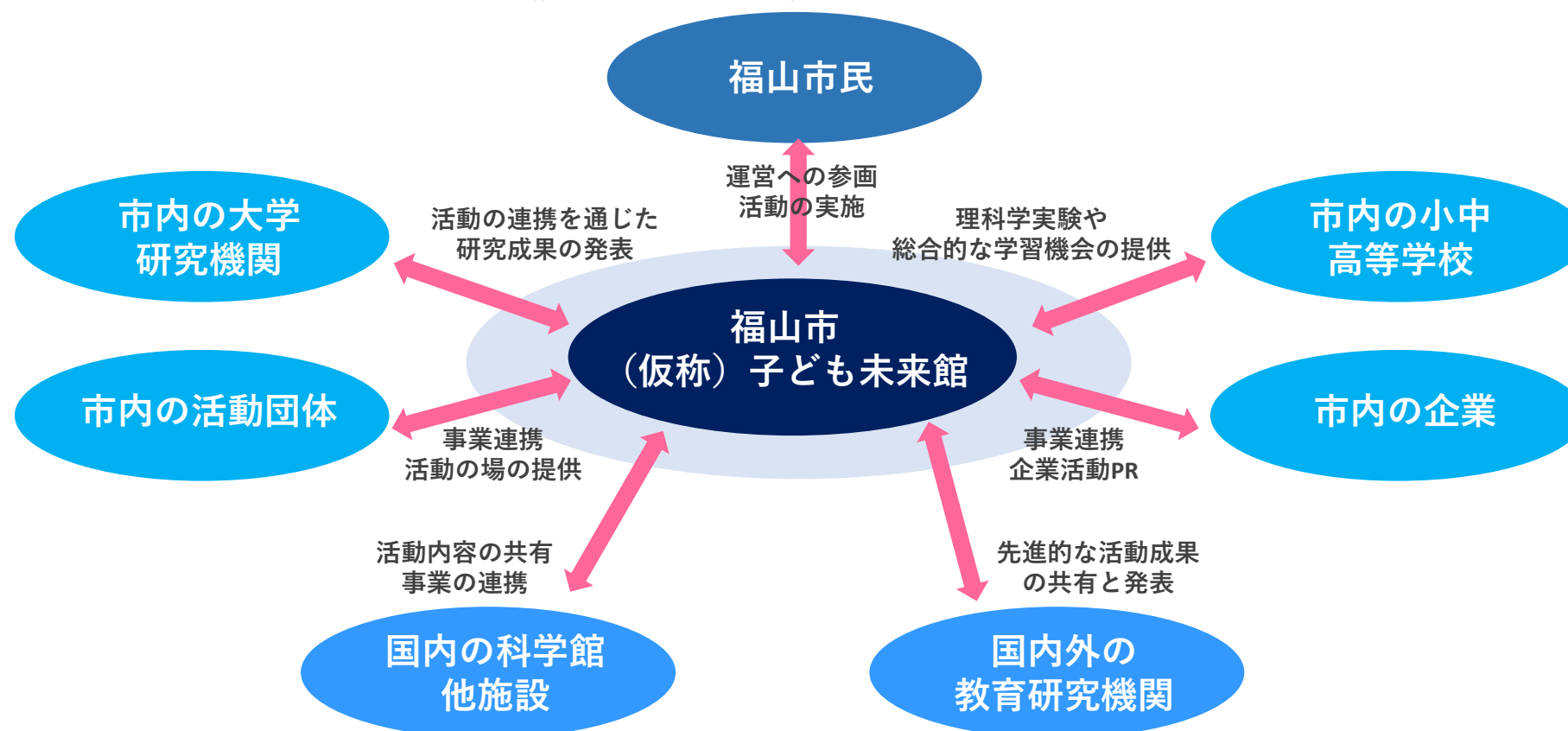
管理運営体制について

■（仮称）子ども未来館の運営において主たる担当とその特徴



■（仮称）子ども未来館内外を通じた連携イメージ

（仮称）子ども未来館が中心となり市内の既存の市民活動はもちろん市内の大学や企業との事業連携をはかり、福山市全体の活性化へと貢献できる施設を目指します。運営においては市民参画の機会をつくることでみんなで運営する未来館のあり方を模索します。



事業方式について

（仮称）子ども未来館の整備においては様々な事業方式を多角的に比較検討し、本施設にふさわしい事業方式によって事業を推進します。民間のノウハウの活用なども視野に、専門分野の部分委託や指定管理者の導入など、様々な可能性を検討します。

事業方式の種類

公設公営（従来型）

- ・市が公的資金をもとに施設の設計・建設を行い所有し、維持管理・運営の全てを実施。
- ・一般的に建設における仕様決定は市で行うため、コスト削減部分は少なくなる可能性がある。
- ・管理運営における責任所在は市にあり、専門職員の雇用など専門性の高い業務の安定性を確保できる。

公設民営（業務委託）

- ・市が公的資金をもとに施設の設計・建設を行い所有し、維持管理・運営業務の全体または一部分を民間に委託する。
- ・一般的に建設における仕様決定は市で行うため、コスト削減部分は少なくなる可能性がある。
- ・管理運営における責任の所在は市にある。受託業者は単年度契約であるため、ノウハウの蓄積や事業の継続性について懸念される。

公設民営（指定管理者制度）

- ・市が公的資金をもとに施設の設計・建設を行い所有し、維持管理・運営を民間が実施する。
- ・一般的に建設における仕様決定は市で行うため、コスト削減部分は少なくなる可能性がある。
- ・管理運営における責任所在は民間事業者にある。
- ・通常3～5年の指定管理期間があるため、民間事業者は複数年にわたる事業計画や人員配置の見通しがたてやすい。
- ・品質の確保や研究、専門性の高い業務の安定化を図るためには一定の要求水準を作成する必要がある。

PFI 方式

- ・民間が施設の設計・建設を行い、民間(BOT)または市(BTO)が施設を所有し、維持管理、運営は民間事業者が実施する。
- ・一般的に設計、建設、管理運営を一括で発注するため、民間事業者によるコスト削減提案部分は大きいと考えられる。
- ・資金調達には民間事業者が行うため、その他の事業方式のように建設時における一度に大きな建設費用を用意する必要はない。
- ・管理運営における責任所在は民間(SPC：特別目的会社)にあり、15年～20年の長期的事業期間が一般的である。
- ・運営における民間のコスト削減提案部分も多くなるが、品質の確保や研究、専門性の高い業務の安定性を担保するための要求水準書の作成が重要となる。

事業スケジュールについて

2022年度は、より具体的な検討を行うための基本計画策定に着手し事業を推進します。

